

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079900223
法人名	社会福祉法人 鷹羽会
事業所名	グループホーム しじみ苑
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡大任町今任原3484-1 (電 話) 0947-41-8050

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4ー6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	18人, 非常勤	0人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000円		その他の経費 (月額)	(水道光熱費) 5,000円		
敷 金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無		
食材料費	朝食	300	円	昼食	350	円
	夕食	350	円	おやつ		円
	または1日当たり		1,000円			

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川市立病院／森戸内科医院／本坂歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の広々した敷地に木造平屋造りで独立した2棟のしじみ苑がある。春には居室より庭の満開の桜を楽しむことができる。居間は明るく、職員が別のテーブルで入居者の様子を記録しており、ほとんど気にならない程広々としている。事務室から居間の様子や、台所からトイレの様子を見ることができ、入居者はゆったりとした空間の中で自由に暮らしている。施設長は、職員と共にお互い思いやりをもってしじみ苑を運営していくという理念のもとに質の高いケアやサービスの提供を目指し、施設長は職員の相談や提案を活かし、その意見については施設長より、きちんとした形で回答を行い職員の意欲を高めている。職員が自由に意見が言える雰囲気を入居者が感じるのか、入居者からの希望も多く、入浴日や布団干しの順番表を作成するなど、一人ひとりの思いを大事にし、地域でその人らしくなごみのある生活を続けていけるように支援し地域密着型サービスの役割を果たそうと努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、記録の工夫や介護計画の立て方などが課題となっており、ミーティングを行い、モニタリングなど独自の記録用紙を作成し改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は管理者を中心に職員全員で話し合い、日々のケアやサービスを振り返り、改善内容なども検討している。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、行政職員・区長・民生委員・家族で構成され、定期的に2ヶ月に1回開催している。内容は事業報告や入居者の生活状況などの報告を行い、行政職員からはアドバイスなどを受け意見交換を行っている。家族の参加が少ないことや意見があまり出ないことなど課題はあるが、定期的に運営推進会議が開催できるように努め、今後は気軽に参加でき、自由に意見を言っていたりするような関係や雰囲気づくりに取り組みたいと考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	来苑時には状況報告を行い、家族に意見や意向を言っていたりできるように取り組んでいる。運営推進会議に家族の参加があり、家族が意見や意向を言っていたりするように更に働きかけていきたいと考えている。管理者は、職員に苦情が挙げられた際にはミーティングを行い運営に反映させている。意見箱は玄関に設置しており、契約時には苦情相談窓口についての説明も行っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との連携は、運営推進会議の機会を活かし情報交換を行い、季節行事などに参加するなどグループホームの理解を育むために取り組んでいる。しじみ苑のすぐ近くに小学校があり、下校時の小学生に気軽に挨拶や声かけを行い、小学3年生との交流学习などを行っている。また、祭りの神輿がしじみ苑を訪れたり、地域の文化祭には作品を出品するなど地域との連携に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域密着型サービスの主旨をふまえ、お互いが思いやりを持って暮らせるように「1人はみんなのために、みんなは1人のために」を掲げ、入居者の人格を尊重し、なじみのある地域で生活できるように独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビングの目につきやすいところに掲げ、入居者やその家族・職員が理念を確認できるようにしている。また、ミーティングでは理事長も参加し理念を掘り下げて話し合い、理念の意識づけが図れるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携は、運営推進会議の機会を活かし情報交換を行い、季節行事などに参加するなどグループホームの理解を育むために取り組んでいる。しじみ苑のすぐ近くに小学校があり、下校時の小学生に気軽に挨拶や声かけを行い、小学3年生との交流学習を行っている。また、祭りの御輿がしじみ苑を訪れたり、地域の文化祭には作品を出品するなど地域との連携に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の調査では、記録の工夫や介護計画の立て方などが課題となっており、ミーティングを行い、モニタリングなど独自の記録用紙を作成し改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政職員・区長・民生委員・家族で構成され、定期的に2ヶ月に1回開催している。内容は事業報告や入居者の生活状況などの報告を行い、行政職員からはアドバイスなどが受け、意見交換を行っている。家族の参加が少ないことや意見があまり出ないことなど課題はあるが、定期的に運営推進会議が開催できるように努め、今後は気軽に参加でき、自由に意見を言っていたりするような関係や雰囲気づくりに取り組みたいと考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	市町村とは状況に応じて連携している。わからないことや改善した方がよい点などはアドバイスをしてもらえるような関係づくりができています。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	研修などの機会が少なく熟知はしていない。現在は、成年後見制度などを利用している利用者はいないが必要に応じて、それらについて説明できるように努めている。	○	研修や資料などを利用し、勉強会を行い熟知できるように努めることが望まれる。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告	毎月、郵送している「しじみだより」で日頃の暮らしぶりを知らせている。家族の面会時には入居者の状況を報告している。また、家族が遠方に在住している場合は電話で報告している。家族のサポートは最も重要と考え、家族との信頼関係を築いていけるように家族とのコミュニケーションを密に取るように努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	意見箱を玄関に設置している。家族から苦情が出された場合は早急にミーティングを行い運営に反映させている。運営推進会議は家族の参加があり、意見や意向を伝えていただく機会として活かしているが、気軽に意見などを出していただけるように場の雰囲気づくりなど取り組んでいきたいと考えている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	○職員の異動等による影響への配慮	職員の異動はない。全職員を正職員とし職員の固定化を図り、入居者へのダメージを防いでいる。新たな職員に十分な引継ぎ期間を取り、入居者の不安感が最小限になるように努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重	職員募集や採用に関しては、ヘルパー2級の資格を取得していることを基本に、年齢・性別などの制限は行っていない。採用についての面接は代表者と管理者2名で行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	研修の機会が少なく、日々のケアやサービス提供・ミーティングの際に入居者への対応などについて話し合いを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	外部の研修への参加を促し、研修の伝達研修を行い、研修内容の周知を図っている。また、資格取得を希望する職員の支援も行っている。管理者は、できる限り職員と関わり、職員の意向の把握などに努め、働きやすい環境づくりや働きながらのトレーニングを進めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	一部の同業者とは連携をとっているが、ネットワークづくり・勉強会・相互訪問などが今後の課題となっている。	○	同業者との情報交換や交流の機会に努め、同業者のネットワーク化により地域への認知症の理解を高める取り組みなどを期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

15	28	○馴染みながらのサービス利用	入居前に見学していただき、納得して入居してもらうように努めている。また、家族から性格や生活歴などを充分に把握し、コミュニケーションを取るように心がけ、新しい生活環境になじめるように工夫している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			

2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	家庭的な雰囲気を大切にしているので、状況によっては怒ったり、泣いたり、また、笑う時はみんなで一緒に笑うなど共有し合える関係づくりを築いている。入居者は人生の先輩であり、入居者から教えてもらうこともなどもあり、入居者の性格・生活歴などを考慮した関係づくりに努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	日々の暮らしの中で、入居者の生活歴や背景など、入居者一人ひとりとコミュニケーションを図り、また、家族から情報を把握するように努めている。日頃から個々の状態観察を注意深く行い、介護記録に些細なことでも記入し、入居者の思いや意向の把握に努めている。また、家族とのコミュニケーションを図り、家族からの情報を把握するように努め、入居者本位の支援ができるように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者の生活歴・性格・生活のリズムやパターンを把握し、入居者・家族・職員と話し合い、情報の共有化を図り、入居者主体の暮らしができるように介護計画に反映している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	短期目標・長期目標を掲げ、1ヶ月に1回のモニタリングと評価を行い、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。突然の変化や状態が変わった場合は早急に介護計画の変更を行っている。日々の暮らしの中で観察に注意を払い、些細なことでも、気づいたことを介護記録に記入し、介護計画の見直しの際に活かしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	同じ系列の施設（ケアハウス）が併設しており、マンパワーが充実しており、行事などは合同で取り組み、楽しみごとも多く、法人ならではの取り組みがある。また、入居者や家族の要望や状況に応じて受診の支援も行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、入居者の状態が変化した場合には、専門医へ受診できるように入居者及び家族からの了解を得ている。		
		本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りケアについては話し合いを行っているが、職員の看取りに関する理解を高め、今後の対応を検討していきたいと考えている。家族や入居者の意向などに そって、重度化や終末期についての方針や支援の具 体的内容について話し合っていくことが望まれる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	職員同士が協力して、入居者の誇りやプライバシーを 損ねないように言葉かけには充分配慮し、職員間で フォローしたり、傾聴的コミュニケーションを行うなど、さ りげない対応を行っている。記録については個人情報 の規定に従い保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	入居者の希望や生活リズムにそった過ごし方ができる ように心がけている。業務に追われてゆとりがない職員 には、他の職員がフォローし、職員本位の過ごし方に ならないよう支援している。また、業務が優先した場合 には、ミーティングで話し合い、入居者がその人らしく 生き活きと過ごせることを第一に取り組んでいる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	食事で季節感を感じられるように初物などを使い、食事を楽し んでいただけるように努めている。調理を希望する入居者 には、負担にならない程度に料理を作ってもらい、これまでの 暮らしの継続ができるように取り組んでいる。また、おやつも マンネリ化しないように和菓子や、手作りのおやつなど提供し 食生活の充実を図っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	入浴は1日おきに、希望する時間帯に入浴している。 体調不良で入浴できない時は清拭を行っている。入居 者は皆さん、入浴が大好きで拒否することはほとんどな い状況である。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者ができること、できないことを見極めて、入居者の気分転換や活躍の機会をつくり、日々の暮らしを生き生きと過ごしていただけるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	○日常的な外出支援	散歩を日課にしている入居者もいる。天候のよい日は近隣の地蔵参りや小学校周辺を散歩している。希望する店に買い物に出かけるなど気分転換を図っている。また、家族の協力により、外出や外泊を勧めている。外泊が難しくても、せめて外出を家族にお願いし、交流のある人達との関係を大切に支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践	鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置し、エスケープの心配な入居者に対しては見守りで対応し、自由にのびのびとその人らしく暮らしていただけるように環境づくりに努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	○災害対策	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。また、運営推進会議に災害時には地域の住民の協力が得られよう地域代表の推進委員に依頼している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援	入居者の中にはカロリー制限の方もいるので、入居者一人ひとりの毎日の水分量・食事量を把握し記録している。記録をもとに入居者の好みに応じてバランスの取れた食事の工夫を行っている。水分量は800ccを目安に1000cc以上の水分摂取を行っている。水分が少ない場合は、セリーによる摂取フォローや、季節に合った飲み物などバリエーションを増やすなど工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	入居者と一緒に作成した壁絵などを飾り、季節感を感じられるようにしている。また、共用空間からは朝日や夕日が見え、日々の暮らしに潤いを与えている。リビングの天井が吹き抜けで広々としており、暖かみのある空間で入居者はソファでゆったりと居心地よく過ごしている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	入居の際に、今まで使用していた家具や使い慣れた物を持って来ていただいている。また、家族の写真や入居者の手作りの品などを飾り、家庭的な雰囲気づくりに努め、入居者が気持ちよく過ごせる空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			